

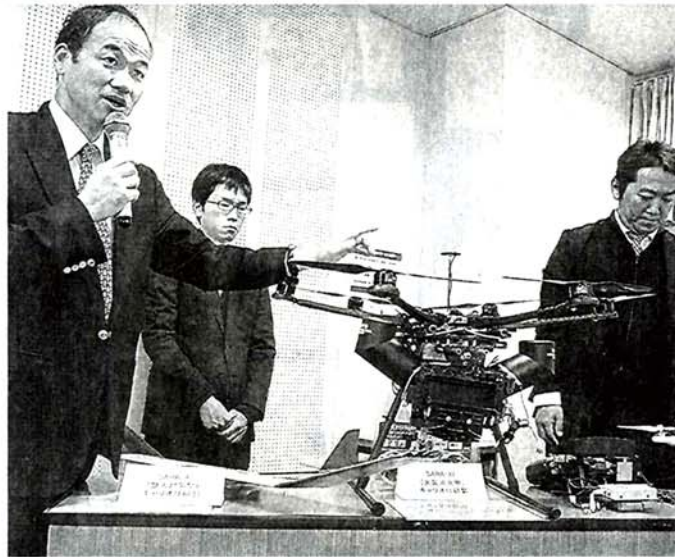
ドローン活用法探る

名古屋で経営者ら研修会

名古屋中小企業振興会は八日、小型無人機「ドローン」の活用法を探る研修会を名古屋市内で開いた。中小企業の経営者や学生ら五十人が、ドローン開発を手掛ける同市のキャリア技研社長、富田茂さん(画)から基礎知識を学んだ。

ドローンは部品の小型化や低価格化で徐々に普及し、宅配サービスや災害現場での活用が期待されている。一方で、四月に首相官邸の屋上でドローンが見つかる事件が起きるなど、飛行のルール化が求められている。

富田さんは事件を起こした趣味用のドローンと、ビジネスの可能性を広げる業務用ドローンとを分けて考え



ドローンを示しながら活用法を話すキャリア技研の富田茂社長(左)＝名古屋市千種区で

るべきだと指摘。「包丁も凶器になることがまれにあるが、正しい使い方をすれば素晴らしい料理が作れる。事件が起きたからといって

て安易な規制をするべきではない」と述べた。

実用化に向けては、火災現場に消火ボールを投下して初期消火に協力したり、海でおぼれた人に浮輪を運んだりするための開発が進められているという。

富田さんは「新しい産業なので、どこにでも需要が生まれる可能性がある。皆さんの分野でも活用できるか考えてみては」と投げ掛けた。

(浅井俊典)